

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

# 非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン改訂第2版

日本ペインクリニック学会 非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン作成ワーキンググループ (委員長: 山口重樹 獨協医科大学麻酔科学講座教授)

真興交易、2017年7月20日 第2版第1刷発行

## Grading Scale of Strength of Evidence

- A (強): 効果の推定値に強く確信がある
- B (中): 効果の推定値に中程度の確信がある
- C (弱): 効果の推定値に対する確信は限定的である
- D (とても弱い): 効果の推定値がほとんど確信できない

## Grading Scale of Strength of Recommendation

- 1: 強く推奨する
- 2: 弱く推奨する (提案する)

## ■1 ダイオウ

疾患:

オピオイド鎮痛薬による便秘

CPG 中の Strength of Evidence:

B (中): 効果の推定値に中程度の確信がある

CPG 中の Strength of Recommendation:

1: 強く推奨する

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ19: オピオイド鎮痛薬による便秘をどのように管理するのか?』に対して、解説の項の表中に下記の記載がある。

『表 9 オピオイド鎮痛薬による便秘に用いられる緩下薬

使用薬物の分類: 大腸刺激性下剤

一般名: ダイオウ

商品名: 大黄末』